

「魅力」展が1日から京都
れた衣装展示や職人の実演着
物の世界を紹介する。

見て

後織物が採用される。31日
には同ブランドのクリエイ
ターらが京都市上京区の府
庁を訪問し、前丹後きもの
クイーンクイーンの松村優花さん
(28)がドレスを着て登場。
斬新な意匠に、山田啓三知
めん事は「素晴らしいですね」
と感嘆の声を上げた。
とし 記念展ではパリコレのド
レス5点を飾り、丹後ちり
めのんの着物や帯などを並べ
る。洋装のネクタイやスカ
ーフなども展示販売し、丹
後織物の幅広さを知っても
ちな。藤系のより合わせ、
螺鈿カラガハ作りなどの実演で技
術の高さをアピールする。
開に 丹後ちりめんに墨描きを
行う草木染作家の堤木象さ
ん(60) 京丹後市網野町
外で 〓は「丹後織物の現況と未
来の向けた可能性を見てほ
しい」と話す。5日まで。
京都市高島屋075(221)
8811。
も丹 (大西保彦、小野俊介)

てんかん 偏見なくして

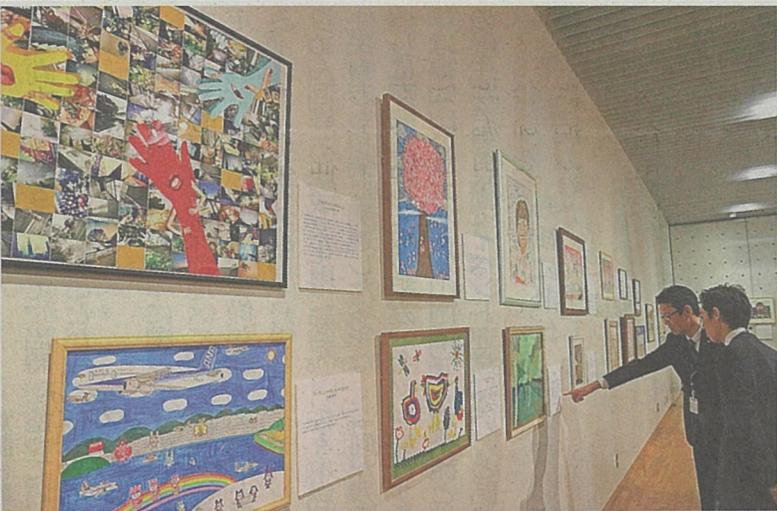
患者ら絵や習字で思い伝え

左京でアート展

てんかんの患者や家
族、医療関係者ら病気
に關わりのある人たち
のアートを集めた「て
んかんをめぐるアート
展2017」が1日か
ら、京都市左京区の京
都大総合博物館で始ま
る。31日に内覧会が行
われた。

3〜5日に同区の国
立京都国際会館で行わ
れる「日本てんかん学
会芸術集会」に合わせ
て開催。芸術が治療に
果たす役割を感じても
らうのと同時に、関係
者の思いを伝えること
で、病気に對する誤解
や偏見を解ききつかけ
になればと、同集会在
企画した。
会場には、全国から
85人が出品した絵画や

習字、切り絵などが並
ぶ。作品の横には作者
葉が添えられ、創作



カラーシチュやシールで描いた絵など、てんかん
の患者らが作った作品を展示する会場(京都市
左京区・京都大総合博物館)

する際の気持ちや、
家族の思いが伝わって
くる。
大事にしていたペッ
トのウサギを描いた
作品の横には「毎日早
起きして絵を描く。画
紙に向かう時、苦し
さは忘れる」と書かれ
ている。四季の花や鳥
を描いた女性の作品
には、母親の代筆で「心
の波がおだやかに染に
なってくれることを想
っています」と添えら
れ、娘を思いやる親
の気持ち伝わってく
る。

アート展の運営委員
長を務める池田昭夫・
京都大大学院医学研究
科教授は「言葉と作品
を一緒に鑑賞すること
で、患者さんたちへの
理解につながれば」と
話している。5日まで。
午前9時半〜午後4時
半。有料。
(太田敦子)

二ク椅子展示

湾曲型など21点



並ぶ会場(京田辺市宮津・
ヤラリー)

開かれている。
大阪成蹊大(大阪市
東淀川区)でインテリ
アや造形を学ぶ芸術学
部2年の学生たちが、
それぞれ角材12本と合
板2枚を材料に製作し
た。二つこ分割でき

座ったまま走る耐久レ
イス「いすー1GP」(グ
ランプリ)で知られ
る同市河原のキララ商
店街でも後日展示予
定。
(大竹逸朗)